

ツバメの観察

熊本市立白川小学校 5年 福永 智之

1 研究の目的

家の駐車場にツバメが巣を作ったので、その子育てを見たいと思った。そして、①ヒナが育っていく様子 ②親がどのように子育てするのか、の2つを観察することにした。

2 研究の方法

- (1) 毎朝、長い棒の先にカメラをつけて、巣の中のヒナの様子を観察した。
- (2) 人が見えると親鳥が逃げってしまうので、ビデオカメラを置いて、親鳥がエサを運ぶ様子を観察した。

3 結果と考察

(1) 巣作りから巣立ちまで (写真省略)

5/10 巣作りを始める	6/27 羽しようがなくなり、羽が生えそろう
5/30 たまご4個確認 ほう卵	毛づくろいや羽ばたきの練習を始める
6/13 ヒナが生まれる(3羽)	6/30 1羽目が巣立つ 夜は巣にもどり、寝ていた
6/20 巣からヒナが顔を出す 羽しようが生えてくる	7/2 3羽とも巣立つ 7/10 親と一緒に巣の近くで生活する

(2) 子育ての様子

<エサやりの様子>



ツバメがどのくらいエサを食べるか調べるために80分ビデオを撮り、エサを食べる回数を数えた。ツバメの親は、80分間に45回エサを運んできた。2分に1回ぐらいになる。朝6時ごろから夕方6時ごろまで運んでいたもので、1日では400回ぐらい運んでくることになる。それぞれのヒナが何回エサを食べているか数えてみたら、1羽目が15回、2羽目が16回、3羽目が14回食べていた。巣の中のヒナの並び順は、時々、入れ替わっていたが、エサは、平等に食べていることが分かった。(表略)



ツバメは、肉食で、生きたこん虫しか食べない。ハチ、トンボ、ガやもっと小さなこん虫をつかまえて与えている様子が観察できた。

<親ツバメが3羽?>



エサを運ぶ親ツバメが3羽いることがあった。これは、ヘルパーツバメといって、子どものいない

若いツバメや先に生まれたきょうだいが子育てを手伝うことがあるそうだ。

(3) 巣立ちの後



巣立ちの後もしばらくの間、巣の近くで親鳥といっしょに生活していた。10日ぐらいで巣の近くからいなくなった。



坪井川緑地のヨシ原で、巣立った子ツバメの大群を見ることができた。来年、元気で帰ってきてほしい。